

日本バレーボール学会 第 26 回大会

プログラム・抄録集

2021年 3 月 21 日(日)13:00~

3 月 31 日(水)18:00

オンラインにて開催

主 催:日本バレーボール学会

主 管:日本バレーボール学会 第 26 回 大会実行委員会

<目 次>

<日本バレーボール学会 第26回大会 組織委員会・実行委員会>	1
<これまでの大会>	3
<参加者・一般研究発表者へのお知らせ>	6
<大会内容>	8
<特別講演>	9
<オンコートレクチャー>	10
<一般研究発表プログラム・抄録集>	12
<入会案内>	221
<協賛企業・団体一覧> 第25回大会の協賛（前回同様）	

＜日本バレーボール学会 第26回大会＞

日本バレーボール学会 第26回大会

組織委員会・実行委員会

大会名誉会長：遠藤俊郎（日本バレーボール学会 名誉会長・山梨学院大学）

大会会長：河合 学（日本バレーボール学会 会長・静岡大学）

☆組織委員会

委員長：河合学(静岡大学・JSVR 会長)

副委員長：古澤久雄(かのやスポーツ研究所・JSVR 副会長),

黒川貞生(明治学院大学・JSVR 副会長), 石手 靖 (慶応義塾大学)

委員：(JSVR 理事)

朝日健太郎 (参議院議員), 飯田周平 (国土舘大学), 板倉尚子 (日本女子体育大学),

内田和寿 (京都光華女子大学), 小川宏 (福島大学), 久保田もか (長崎大学),

後藤浩史 (愛知産業大学), 城成人 (堺市立西百舌鳥小学校), 杉山仁志 (武蔵丘短期大

学), 高根信吾 (常葉大学), 高野淳司 (東北工業大学), 高橋宏文 (東京学芸大学),

田中博史 (大東文化大学), 布村忠弘 (富山大学), 中西康己 (筑波大学),

橋本吉登 (三ツ境整形外科), 廣美里 (名古屋学院大学), 濱田幸二 (鹿屋体育大学),

松井泰二 (早稲田大学), 森岡裕策 (日本スポーツ協会), 安田貢 (山梨学院大学),

湯澤芳貴 (日本女子体育大学), 横矢勇一 (大東文化大学), 吉田清司 (専修大学)

監事：柏森康雄 (JSVR 監事), 廣紀江 (学習院大学・JSVR 監事)

☆実行委員会

委員長： 福田 隆（愛媛大学）

副委員長： 松井泰二（早稲田大学），吉田清司（専修大学），企画委員会

会計 ○高根信吾（常葉大学），総務委員会

庶務：○濱田幸二（鹿屋体育大学），企画委員会

申込受付：○田中博史（大東文化大学），高根信吾（常葉大学），総務委員会

記録：○横矢勇一（大東文化大学），編集委員会

渉外：○杉山仁志（武蔵野短期大学），渉外委員会

＜これまでの大会＞

回	年月日	内容	開催場所
第1回	1996年 5月26日	・内外バレーボールの動向と今日の課題 ・バレーボール史抄 ・日本における6人制バレーボールの原点	早稲田大学
第2回	1997年 3月22日	・発展途上国のバレーボール政策と現状 ・21世紀を目指したコーチング	早稲田大学
第3回	1998年 3月28日	・温故知新—歴史に学ぶ ・ルールを考える	早稲田大学
第4回	1999年 3月21日	・'98バレーボール世界選手権を語る ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	早稲田大学
第5回	2000年 3月19日	バレーボール発展のための企業チームからの提言 ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	早稲田大学
第6回	2001年 3月18日	21世紀のバレーボールの在り方を考える ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	早稲田大学
第7回	2002年 3月17日	バレーボールは変わるか ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	大阪体育大学
第8回	2003年 3月23日	日本バレーボール再建へのシナリオ ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	明治学院大学 白金キャンパス
第9回	2004年3月 27・28日	バレーボール学会の足跡と展望 ・オンコートレクチャー(セッターの系統的コーチング) ・ワークショップ 一般研究発表 ・シンポジウムⅠ(バレーボールの授業展開を再考する) ・シンポジウムⅡ(コーチに要求される資質を再考する)	明治学院大学 白金キャンパス
第10回	2005年3月 26・27日	夢をかなえるバレーボール ・基調講演 ･シンポジウム ･一般研究発表 ・オンコートレクチャー	東京女子体育 大学
第11回	2006年3月 4・5日	競技力向上のための育成システム ・フォーラム ･オンコートレクチャー ・一般研究発表	慶應義塾大学 日吉キャンパス
第12回	2007年3月 3・4日	次世代バレーボール選手の育成 ・フォーラム ･シンポジウム ・オンコートレクチャー ･一般研究発表	大東文化大学 東松山 キャンパス

第 13 回	2008 年 3 月 22・23 日	ひと、まち、地域を造るバレーボールの魅力 ・フォーラム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	筑波大学 つくば カピオホール
第 14 回	2009 年 2 月 28・3 月 1 日	ジュニア育成のために…!わかりあえる仲間づくり ・基調講演 ・フォーラム ・一般研究発表 ・特別講演 ・オンコートレクチャー	夙川学院 短期大学
第 15 回	2010 年 3 月 27・28 日	小学校・中学校および高等学校の現場を考える ・特別記念講演 ・シンポジウム ・ワークショップ ・フォーラム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー	文京学院大学 女子中学校・高 等学校
第 16 回	2011 年 2 月 26・27 日	性差を考慮したコーチングを考える ・基調講演 ・特別講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・フォーラム ・オンコートレクチャー	日本女子体育大 学
第 17 回	2012 年 3 月 3・4 日	復興・再生におけるスポーツの貢献を考える ・フォーラム A・B ・シンポジウム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表	慶應義塾大学 日吉キャンパス
第 18 回	2013 年 2 月 23・24 日	世界トップレベルから見た日本のバレーボールの 現状と課題 ・基調講演 ・シンポジウム ・フォーラム ・一般研究発表 ・キーノートレクチャー	武蔵丘短期大学
第 19 回	2014 年 2 月 15・16 日	コーチング力を探る ・特別講演 ・シンポジウム ・ワークショップ ・フォーラム ・一般研究発表	鹿屋体育大学
第 20 回	2015 年 3 月 7・8 日	RIO 2016 そして TOKYO2020 へ ～ブラジルに学ぶ～ ・特別講演 ・基調講演 ・シンポジウム ・フォーラム ・一般研究発表	早稲田大学
第 21 回	2016 年 3 月 19・20 日	セッターに求められるスキルと戦術 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・フォーラム ・オンコートレクチャー	明治学院大学 白金キャンパス
第 22 回	2017 年 3 月 11・12 日	2016 リオ五輪を総括し、2020 東京五輪を考える ・特別講演 ・基調講演 ・シンポジウム ・オンコートレクチャー	国士舘大学 世田谷キャンパ ス
第 23 回	2018 年 3 月 17・18 日	東京五輪の先を見すえて ・特別講演 ・基調講演・ シンポジウム ・オンコートレクチャー	名城大学 ナゴヤドーム前 キャンパス

第 24 回	2019 年 3 月 2・3 日	これからの課外活動におけるコーチングを考える ・基調講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー	山梨学院大学 甲府酒折キャン パス
第 25 回	2020 年 3 月	スポーツによる地域貢献を考える ・特別講演 ・ シンポジウム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー *コロナ禍により一般研究発表のみオンラインで実施	愛媛大学 城北キャンパス
<p>※第 1 回から第 4 回までは「バレーボール研究会」として、 第 5 回から第 14 回までは「バレーボール学会」として、 第 15 回以降は「日本バレーボール学会」として学会の名称も変化しつつ今日まで継続的に開催してきた。</p>			

<参加者へのお知らせ>

学会参加者は事前登録，当日登録ともに参加申し込みをしていただきます。

カテゴリ	参加費（事前登録）	参加費（当日登録）
学会員（一般）	2,000 円	2,5000 円
学会員（学生）	無料	無料
非会員（一般）	2,500 円	3,000 円
非会員（学生）	1,000 円	1,500 円

※ 学生（大学生および大学院生）として参加申し込みされる場合は，事前に学生証の提示をお願いします。但し，高校生以下は無料です。

○日本バレーボール学会の年会費を未払いの方は，年会費をお支払いになり，領収書をメールにてお受け取りください。

<一般研究発表者へのお知らせ（発表まで）>

- 1) 発表書式は A0 サイズで横 84.1cm×縦 118.9cm です。Web での公開となりますので，A4 版などを数枚使用しての掲示も可能です。
- 2) ポスターは上部 20cm 程度の幅に題名と演者名を記し，それ以降は自由な形式で作成してください。
- 3) ファイルの最大容量は 10MB とし，必ず PDF 形式にてメール添付としてください。
- 4) 詳細は，一般研究発表申込要領を参照してください。

<一般研究発表者へのお願い（発表後）>

本大会における演者は，機関誌「バレーボール研究」へ掲載する原稿を提出して頂きます。下記の抄録作成要領に従い抄録を作成し，その内容を添付ファイルにて，2021年4月6日（火）までに下記までお送り下さい。原稿の送付は E-mail（添付ファイル）にてお願いします。

◆送り先

日本バレーボール学会 第 26 回大会 庶務担当（一般研究発表担当）

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町 1

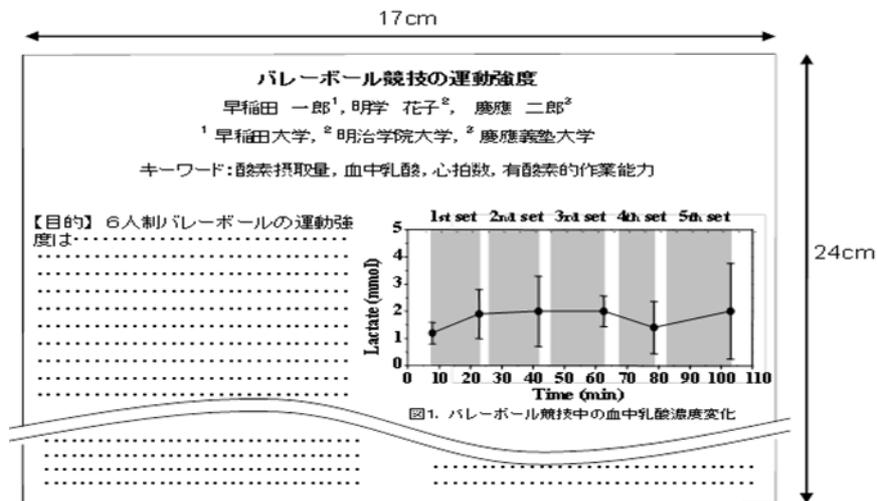
鹿屋体育大学 濱田幸二研究室

Tel&Fax : 0994-46-4991

E-mail: hamada@nifs-k.ac.jp

◆機関誌掲載用抄録作成要領

- 1) A4用紙（白）1ページ（印字範囲：縦24cm×横17cm）を用い、必ずワードプロセッサ（10.5ポイント明朝体）で作成すること（下図参照）。
- 2) 形式：演題名，演者名，所属機関名，内容要旨を範囲に収まるようにまとめること（下図参照）。
- 3) 演題名は最上段の1行目または2行目を使用すること。副題がある場合は行を改めること。演題名は12ポイント太字とする。
- 4) 演者名，共同研究者名および所属機関名は4行と5行を使用すること。演者名の前に○印を付けること。所属機関名は演者ならびに共同研究者を列記した後，改行して記入し，所属機関名の左肩に記入順に番号を付けること。
- 5) 演者および共同研究者の所属機関は，演者および共同研究者の右肩に所属機関の番号で表示すること。
- 6) キーワードを6行目に2～5語記入すること。
- 7) 抄録内容は7行目から記入すること。目的，方法，結果，考察，結論の順でなるべく項目別にまとめること。ただし，フォーラム・セクションで発表した演題については，そのまとめ方は上記の形式にとらわれることなく自由とするが，発表内容，ディスカッション内容を含めてまとめる。
- 8) 図，表および写真を掲載する場合でも必ず本文枠内に収めること。
- 9) 図および表は原稿用紙に直接作成するか，白色または薄青色の方眼紙に黒インクで作成して原稿用紙に貼り付けること。写真はスキャナーで取り込み，原稿用紙にコピー&ペーストするか，写真そのものを原稿用紙に貼りつけること。なお，説明文の文字の大きさにも考慮すること。



機関誌掲載用抄録の作成例

<日本バレーボール学会第26回大会 内容>

<開会の挨拶> 河合 学 (日本バレーボール学会 会長)

<特別講演> 【テーマ】 初代アナリストの活動を振り返って
～データ・ルール・人、何と戦う?～

演 者： 福田 隆 (愛媛大学)

<オンコートレクチャー>

【テーマ】 ビーチバレーボール特有の戦術・戦略

講 師： 佐伯 美香 (元ビーチバレー日本代表選手)

指導補助者： 楠原 千秋 (愛媛県競技力向上対策本部)

撮影場所： ひめっこビーチスクール

<閉会の挨拶>

黒川貞生 (日本バレーボール学会 副会長)

<一般研究発表 ポスターセッション>

<特別講演>

写真略

福田 隆 (ふくだ たかし)

愛媛大学 教育学部 教授

◆職歴・社会における活動

- 1981年 日本体育大学大学院修士課程
体育学研究科体育学専攻 修了 (修士 (体育学))
- 1981年 大阪府立大学 総合科学部 助手
- 1986年 愛媛大学 教養部 講師
- 2007年 愛媛大学 教育学部 教授
- 1981年 JVA 協会科学研究委員会委員
(現：ハイパフォーマンスサポート委員会)
- 1990年～2000年
全日本男子バレーボールチーム (アナリスト)
- 2002年～ 全日本大学バレーボール連盟 強化委員
- 2010年～ 愛媛県バレーボール協会 強化委員長
- 2017年～ 四国大学バレーボール連盟 会長

初代アナリストの活動を振り返って ～データ・ルール・人、何と戦う？～

バルセロナオリンピック (1992) の出場を目指し、1990年に大古誠二 (1972 ミュンヘンオリンピック優勝選手) 監督を基に新生全日本男子バレーボールチームが招集されました。この時に初めてチームスタッフの中にアナリストのポジションが設けられ、福田の活動がスタートしました。与えられた使命は、勝つために必要な情報の提供である。一般的には、アタックの決定率・サーブレシーブの返球率等の統計的なデータがある。しかし、一般的な概念だけでは、勝利を得ることは困難であろう。当時の専務理事であった松平康隆氏 (ミュンヘンオリンピック優勝監督) の言葉「常識の延長線上に金メダルは存在しない」を大切に胸に留めています。そこで、バレーボールのルールを再検討し、ルールの限界に挑戦することを決意しました。これらの結果、当時のベンチに存在しなかったパソコン・トランシーバーによる情報伝達は、今日では当たり前のように活用される状態になっています。

アナリスト活動をする中で、多くの貴重な体験をしました。本公演の中で、多くの方にお伝えしたい事例を紹介したいと考えています。その一つとして、バルセロナオリンピックの対アメリカ戦での珍事について：セットカウント 2-1 で、第 4 セットに日本がマッチポイントを迎えたときに、アメリカの選手にイエローカードが提示された。本来なら、彼は 2 枚目のイエローカード提示のため、レッドカードに変わり、1 点が日本チームに入りゲーム終了であった。日本チームの講義も及ばず、イエローカードのままゲームが継続され、アメリカが大逆転勝利となり、ゲームが終了しました。試合後の抗議・国際バレーボール連盟の裁定の結果、翌日になってセットカウント 3-1 で日本の勝利となる大逆転劇となり、球技史上初の珍事となりました。あつてはならない事例ですが、ゲーム終了後にキャプテンが公式記録にサインをする手続きに重要なポイントがありました。(続きは、講演にて・・・)

<オンコートレクチャー>

写真略

佐伯美香 (さいき みか)

B-SPORT EHIME 代表

松山東雲女子大学バレー・ビーチバレーボールコーチ

◆プロフィール

京都成安女子高校(現京都産業大学附属高等学校卒業)

ユニチカ株式会社バレーボール部

アトランタオリンピック 出場 (6人制バレー)

シドニーオリンピック 第4位(ビーチバレー)

北京オリンピック 出場 (ビーチバレー)

ビーチバレー特有のルールと技術と戦略

ビーチバレーボールという競技は、8メートルのコートに2人、屋外で砂の上、風のある中でプレーをする競技であり、砂の深さや風の強度を戦略の中に組み入れ、監督もいない、代わり選手もいない中、2人だけで試合の状況を見極めながら戦っていかねばいけない競技である。

2人だけということで、インドアバレーのように、セッター、レシーバー(リベロ)、スパイカーといった役割はなく、全ての技術をペア2人ともに必要とされる。

6人制バレーとルールが異なる点は、ブロックのワンタッチがカウントされるため、ブロック+2回タッチで相手コートに返球しなければならない。インドアでの指の腹を使ったフェイントは禁止されているので、指を曲げてのポーキーショットや指を伸ばしてのコブラショットを適用する。オーバーパスでの相手コートへの返球は、身体の向きに対して真正面か、真後ろしか許されていない。相手のサーブボールや攻撃のショット(強打ではないボール)に対してのハンドリングがインドアと比べて厳しいため、サーブレシーブはオーバーハンドでの返球はほとんどなく、アンダーか、組手、ポーキーなどを使う。コートに2人しかいないため、インドアと比べて、空いているスペースが多いため、カットショット(クロス側のネットに近いショット)やラインショット(ストレート側のブロックやレシーバーの上を超える山なりのショット)、ディープショット(クロスのコナー側のブロックやレシーバーの上を超える山なりのショット)、ティップショット(トスがネットから離れて、ブロッカーが後ろ下がった前に落とすショット)などビーチバレー特有のショットを使う。

またビーチバレーは砂の上でプレーをする上で、深い砂や浅い砂などを見極め、プレースタイル、試合の戦略を立てていく必要がある。深い砂だとジャンプがしにくく、レシーブも動きづらくなるので、強打よりもショットが有利であり、浅い砂だと動きやすいため、より強打の方が有利になるといった特性がある。

また風のある場合は、風向きなどを考慮して、プレーしなければならない。風上(自分の後ろから前に吹く風)、風下(自分に向かってくる風)があるが、風上の方がプレーはしやすいが、風上の方ではボールコントロールが難しく、力加減が難しいので、それを考慮してプレーをする必要がある。例)風下から風上に向かってサーブ、スパイクを打つなど。

インドアバレーと異なる様々な環境の違い、ルールの違い、人数の違いにより、インドアよりもより丁寧に基本に忠実にプレーをする必要があり、2人だけということで、コミュニケーションスキルが非常に重要である。

ビーチバレーのスキルは、インドアバレーにも良い効果をもたらす技術、戦略の宝庫である。

楠原千秋（くすはら ちあき）

愛媛県競技力向上対策本部

スポーツ専門員

◆プロフィール

1998年	東京学芸大学卒業
1998年～2005年	ダイキヒメッツ 所属
2005年～2009年	NPO法人 湘南ベルマーレ 所属
2015年～2018年	伊予市社会教育指導員

ビーチバレーの歴史

ビーチバレーは、1920年アメリカのカリフォルニア州サンタモニカのビーチレジャーとして始まったのが発祥とされている。その後、ヨーロッパに伝えられ、1927年にフランスのヌーディストビーチにおけるレクリエーションとして親しまれた。草創期には6人制で行われていたが、1930年にはダブルスで競技した記録が残っている。

1987年、国際バレーボール連盟（FIVB）公認の初の国際トーナメント大会が、ブラジル・リオデジャネイロのイパネマビーチで開催され、これが第一回の世界選手権大会とされている。さらに、FIVBは1990年、世界各地を転戦する国際サーキットを開始した。

1992年バルセロナオリンピック期間中に、スペインで5大陸から100人以上の選手が参加し、公開競技が行われた。その盛り上がりを受けて、1996年バルセロナオリンピックから夏季オリンピックの正式種目となった。

日本では、1987年湘南・鵜沼海岸で第一回ビーチバレージャパンが開催されたのをきっかけに、ビーチバレーが広く認知されるようになり、1989年には、日本バレーボール協会が日本ビーチバレー連盟を発足させている。

オリンピックでは、女子が1996年アトランタオリンピックで、高橋有紀子/藤田幸子ペアが5位、2000年シドニーオリンピックで高橋有紀子/佐伯美香ペアが4位入賞、男子が2008年北京オリンピックで朝日健太郎/白鳥勝浩ペアが9位になっている。

女子はロンドンオリンピックから、男子はリオデジャネイロオリンピックから参加出来ていないが、2020年の東京オリンピックでの日本勢の活躍が期待されている。

＜一般研究発表プログラム・抄録＞

演題番号 No.1

ビーチボールバレーの発展に関する一考察：6人制バレーボールとの比較より
○中村祐太郎（富山高等専門学校）

演題番号 No.2

移籍によるスパイク決定率の安定性への影響
○佐藤文彦（株式会社 DELTA）

演題番号 No.3

トップリーグコーチの学びに関する予備的考察—V.LEAGUE DIVISION1を対象として—
○佐藤国正（桐蔭横浜大学）、内田和寿（京都光華女子大学）、今村直美（東京女子体育大学）、
村本名史（常葉大学）

演題番号 No.4

ミドルブロッカーとアウトサイドヒッターにおける注視点の比較
～ブロックを想定とした、相手からの攻撃映像を視聴して～
○沼田薫樹、坂中美郷、濱田幸二、高橋仁大（鹿屋体育大学）

演題番号 No.5

中学生バレーボール選手の心理的適性に関する研究
—2018年度全日本中学生長身者選抜と2019年度山梨県中学生選抜候補の比較—
○飯塚 駿（山梨学院大学）、加戸 隆司（山梨学院大学）、安田 貢（山梨学院大学）、
三井 勇（山梨学院大学）、遠藤 俊郎（山梨学院大学）

演題番号 No.6

スパイク技術指導ポイントと大学体育授業における学習者の理解度
○久保田 もか（長崎大学教育学部）

演題番号 No.7

オンラインによるバレーボールのコーチングに関する事例研究
○加戸 隆司（山梨学院大学）

演題番号 No.8

ネット際での押し合いのメカニズムについての検討
○三村 泰成（鶴岡高専）

＜一般研究発表 演題番号No. 1＞

ビーチボールバレーの発展に関する一考察 ：6人制バレーボールとの比較より

○中村 祐太郎（富山高等専門学校）

【キーワード】バレーボール型生涯スポーツ, レクリエーションスポーツ, 普及, 発展

【諸言】

ビーチボールバレーは富山県朝日町で誕生したスポーツである。町民が1人1スポーツを推進する上で、朝日町教育委員会と朝日町体育指導委員(当時)が昭和54年にルールを制定した。現在では富山県をはじめとする1都10県が加盟する日本ビーチボール協会が設立されている。

本研究の目的はビーチボールバレーを、6人制バレーボールとの主観的な楽しさ度の差や技術の難易度などを比較することによりビーチボールバレーの特徴を再確認し、更なる発展と全国的な普及のための一助とすることを目的とした。

【調査項目・方法】

調査項目は成田ら(1989)の研究を参考とし、対象者の属性、ビーチボールバレーと6人制バレーボールの総合的な楽しさ度、それぞれで使用する用具や環境について、種目毎のスキルの難易度であった。Microsoftが提供するアンケート作成サービス「Forms」を用いて調査を行った。送信した質問フォームは629部で回収は319部(50.7%)であった。さらに本研究においては「ビーチボールバレー」ならびに「6人制バレーボール」どちらの経験も有する者を対象としたため、本研究の対象者は147となった(23.4%)。

【結果】

調査対象者の属性調査より、本研究の調査対象者としては自己の体力や運動能力に自信のない集団であることが窺えた。分析の結果、本研究の対象者においては6人制バレーボールよりもビーチボールバレーの方が楽しいという有意な差がみられた。それぞれの種目で用いる用具や環境面においては全ての項目で有意な差がみられ、特徴的な内容として6人制バレーボールの方がボールが硬い、ネットが高いという感覚がより顕著にみられた。また、それぞれの種目におけるスキルではサーブ・レシーブ・トス・アタック・ブロック全てのスキルにおいて6人制バレーボールの方が有意に難しいという結果が現れていた。

【まとめ】

以上の結果より、自己の体力・運動能力の自信の低さや用いる用具、技術の難易度がビーチボールバレーと6人制バレーボールとの比較において楽しさの差を生み出している可能性があるといえる。とはいえ、今回の対象者のように体力に自信のない人や6人制バレーボールにおける導入、更には生涯スポーツとして取り組むにあたっては非常に魅力的な競技であり、ビーチボールバレーがさらに発展する可能性は十分あるものと考えられる。

【本研究のセールスポイント】

現在、ソフトバレーボールやインディアカなど全国的に普及しているバレーボール型ニュースポーツがいくつか存在している。これは人々の健康増進や生きがい確保だけでなく日本のバレーボール人口の拡大の一役も担っていると考えられる。本研究で取り上げるビーチボールバレーにおいても同じような特徴がある一方、未だ日本の1都10県を中心としてしか行われていない。ましてや、十分な調査や研究は一切行われていない。本調査研究を皮切りに多くの報告がなされ、「いつでも・どこでも・だれとでも・いつまでも」行うことのできるスポーツとして今後広く社会に普及していくことを期待する。そうすることでポピュラーなバレーボール型レクリエーションスポーツとなるだけでなくバレーボール人口の拡大にも大いに寄与できるはずである。

＜一般研究発表 演題番号No. 2＞

移籍によるスパイク決定率の安定性への影響

○佐藤 文彦（株式会社 DELTA）

【キーワード】 スパイク決定率, 年度間相関, Lega volley, イタリア

【緒言】

成長と衰えは全ての選手につきものだが、毎シーズン選手の能力が増減するようなものではない。このためリーグ全体でデータを見れば、シーズン間で成績が大きく変動することは少なく、データを比較すれば正の相関関係を確認できる。これを年度間相関という。

年度間相関の強さはスタッツによって異なるが、イタリアのセリエAにおけるスパイク決定率の相関は弱い。相関が弱いということは、スパイク決定率が選手の能力以外の要因を受けている可能性を考える。

セリエAではシーズンを挟んで約半数が所属クラブを移籍することから、所属するクラブが変わることで新しい環境でプレーする選手が多く、移籍先のチーム事情に左右されるため、スパイク決定率の年度間相関が弱い可能性が考えられる。そこで本研究では、所属クラブを移籍することの年度間相関への影響を検証した。

【方法】

イタリアセリエAの男女1部(A1), と男子2部(A2)において、2010/2011 から 2018/2019 のレギュラーシーズンの成績から、スパイクの打数が2シーズン連続100記録のある選手を対象に、シーズン間で所属クラブが同じ選手と移籍した選手に分類し、スパイク決定率のシーズン間のピアソンの積率相関係数（年度間相関）を求めた。

【結果と考察】

詳細な結果は当日の発表で報告する。結果としては、移籍した選手のスパイク決定率の年度間相関は、移籍しなかった選手よりも弱いものだった。この結果は、移籍することでスパイク決定率の年度間相関が弱くなるという影響を示唆している。ただし、移籍しなかった選手の年度間相関が強いというわけではなく。スパイク決定率というスタッツは、選手の能力以外の要因にも左右されるところが大きいことがわかった。

【本研究のセールスポイント】

イタリアのリーグのデータを用いることで、日本では移籍の頻度が低いために検証が難しい移籍の効果を分析することができた。この分析によって、チームを移ることの影響と、個人のスパイク決定率が選手の能力以外に外的要因に左右されやすいという性質の示唆を得ることができた。

＜一般研究発表 演題番号N o. 3＞

トップリーグコーチの学びに関する予備的考察

—V.LEAGUE DIVISION1 を対象として—

○佐藤国正（桐蔭横浜大学）、内田和寿（京都光華女子大学）、
今村直美（東京女子体育大学）、村本名史（常葉大学）

【キーワード】トップリーグコーチ、コーチング、学び

【問題の所在と研究の目的】

インターネットやメディア媒体の普及によりコーチングに有効活用できる情報が入手しやすい環境が整ってきている。例えば、USA バレーボール協会のHPでは、バレーボールに関する技術や戦術、トレーニングといった様々な領域に関するドリルやコーチング哲学、チームマネジメントといった幅広い類を活字化、映像化している。一方、日本では選手や指導者、チームがTwitterやYouTube等を活用して練習メニューの紹介や技術解説を行っている。しかし、それらの情報の多くは初心者、部活動、一般のクラブチーム等をターゲットにしたものであり、トップレベルチームの指導に関する内容とは言い難い。そこで本研究では国内のトップリーグでの指導経験を有するコーチらを対象に、どのような手法を用いてバレーボールの技術や戦術、チームマネジメントといったコーチングに関する学びを深化しているか調査した。

【研究の方法】

V.LEAGUE DIVISION1 所属の監督経験者2名【A, C】、コーチ経験者1名【B】をインタビュー対象者とし、半構造化インタビュー法を実施した。

【結果】

《A》：国内外のトップコーチや研究者らと積極的に意見交換している、他。

《B》：コーチング学を専門とする研究者から情報提供してもらう、他。

《C》：日本スポーツ協会公認指導者資格取得、JVA や JSVR 主催講習会への参加、欧州リーグ、国際大会の試合映像の視聴、他。

【考察】

i：経験豊富な同僚コーチや著名なコーチらとの意見交換できる環境を有していること。

ii：コーチング学分野における研究者らに助言を求める器量があること。

iii：専門書籍の講読、欧州リーグ戦や国際大会の試合映像を参考としていること。

iv：講習会等へ参加していること。

v：選手とコミュニケーションを図ることに問題意識を有していること。

【本研究のセールスポイント】

トップリーグの選手のプレイやチーム戦術は多くのコーチらに影響を及ぼすツールと考えられる。本研究は、そうした環境下にいるトップリーグのコーチはどのような手法を活用して技術や戦術に関する学びを深めている傾向にあるかを調査した内容である。

＜一般研究発表 演題番号No. 4＞

ミドルブロッカーとアウトサイドヒッターにおける注視点の比較 ～ブロックを想定とした、相手からの攻撃映像を視聴して～

○沼田薫樹、坂中美郷、濱田幸二、高橋仁大（鹿屋体育大学）

【キーワード】ブロック、注視点、アイマークレコーダー

バレーボールにおいてブロックは前衛のミドルブロッカー（以下MB）1名とアウトサイドヒッター（以下OH）1名、セッターもしくはオポジットの1名、合計3名によって行われる。ブロックにおける注視点は中田ら（2016）が熟練者は未熟練者に対して、ボールの注視が少ないことを明らかにしている。そこで、本研究はポジションによっても異なると考え、注視点の差異を明らかにすることを目的にした。

対象者はK大学女子バレーボール部MB3名、OH3名の計6名とした。また、6名全員がバレーボール競技歴10年を超える熟練者であり、正常な視覚機能を有していた。

実験は、被験者にアイマークレコーダー（EMR-9, nac社製）を装着し、映像を屋内で視聴した。映像は1本目のパスを出すレシーバー、トスを上げるセッター、スパイクを打つスパイカー2名の計4名、およびボールの全てが見えるように撮影した。攻撃パターンとして高梨

（2008）を参考に（1）スプレッド、（2）コンボ、（3）バックプレイヤーの参加の3種類をそれぞれ3つ計9パターン作成した。各映像は3つの局面に分類し、セッターから投げられたボールを「①レシーブするまで」、「②レシーブしてからトスを上げるまで」、「③トスを上げてからスパイクを打つまで」とした。

統計処理はMBおよびOHの割合の差を比較するため、カイ二乗検定を行った。偏りがあると判断された場合その後の検定として残差分析を行った。また、有意確率は5%水準とした。

その結果MBとOHにおいて全ての局面で偏りがあると判断された。②レシーブしてからトスを上げるまでの注視点の割合が、OHはボールが8.8%、レシーバーが10.1%、セッターが21.9%、スパイカー①が11.8%、スパイカー②が20.9%、その他が26.6%であった。一方でMBはボールが4.7%、レシーバーが7.7%、セッターが57.9%、スパイカー①が2.7%、スパイカー②が8.8%、その他が18.2%であった。カイ二乗検定を行った結果、レシーバーを除いたボール、セッター、スパイカー①、スパイカー②、その他の注視時間に有意な差が認められた（ $p < 0.05$ ）。OHは様々なエリアを注視しているのに対し、MBはセッターを約58%注視していた。MBはレシーブ後にセッターを注視ししながら、2人のスパイカーを周辺視野で捉えていると予想される。

【本研究のセールスポイント】

これまでバレーボールにおける注視点の研究は熟練者と未熟練者の競技レベルによって比較している。しかし、ポジションを考慮した研究が行われていなかったため、ミドルブロッカーや両サイドのポジションによる特性があるのではないかと考えた。本実験はブロック時のポジションによる注視点の差異を明らかにした研究である。

＜一般研究発表 演題番号No. 5＞

中学生バレーボール選手の心理的適性に関する研究

－2018年度全日本中学生長身者選抜と2019年度山梨県中学生選抜候補の比較－

○飯塚 駿（山梨学院大学）、加戸 隆司（山梨学院大学）、安田 貢（山梨学院大学）、
三井 勇（山梨学院大学）、遠藤 俊郎（山梨学院大学）

【キーワード】中学生,心理的特性,TSMI

昨今のスポーツ界において、スポーツの価値が脅かされる事案(ドーピング,加盟スポーツ団体のガバナンス低下,スポーツ指導者[監督・コーチ]による不適切な指導など)もあり,スポーツ指導者には『プレーヤーセンタード』という理念を念頭にした指導が求められている. このような中で,指導者にとって,選手の心理的特性を理解することは非常に重要である.そこで本研究では, Y 県の中学生選抜候補選手と全日本中学生長身者選抜選手を対象に, TSMI の得点を比較・検討することにより, プレーヤーの心理面を思慮に入れたコーチングに(本研究ではバレーボール)関する一資料に役立てることを目的とした. 全日本中学生長身者選抜バレーボール選手(男子 50 名, 女子 48 名)及び, Y 県中学生選抜候補バレーボール選手(男子 39 名, 女子 55 名)計 192 に対し, TSMI(日本体育協会競技意欲検査)の尺度にフェイスシートを加え,「バレーボール選手の競技に対する意識調査」として実施した. その結果, 女子選手は男子選手と比べ, 自己の目標や限界に積極的に挑戦し, 技術の向上を目指す中で, 知識を身につけ, 競技で勝つことを目的に努力する傾向がある. また, バレーボールが自分にとって価値があるものと認識し, 練習も意欲的かつ持続的に行い, それ故に, 試合での成功や技術の向上が自分の努力の結果であると考える傾向にあることが示唆された. 全日本と Y 県との比較では, 全日本は, バレーボールの知識をえることで, 不利な状況や競い合い等でも闘志を強くもつ傾向にある. さらに, 全日本の方がコーチのことを信頼している. それに対し, Y 県は, コーチとうまく関係を築くことができない傾向にある. そのため, Y 県ではコーチと選手の間関係をうまく築いていくことで, 競技水準の向上に繋がる可能性が推察される.

このことから, 中学生を対象としたメンタルマネジメントや指導全般において, 心理的特徴を考慮した指導が必要である. しかし, 心理的特徴は個々によって異なるものであるため, 画一的なものにとらわれず, 選手個々にあった方法を用いる事が重要である.

【本研究のセールスポイント】

中学生の心理的側面に着目したことや競技水準での比較できたことは, 中学校の指導現場において, 今後の指導の一資料に役立てる可能性がある.

＜一般研究発表 演題番号N o. 6＞

スパイク技術指導ポイントと大学体育授業における学習者の理解度

○久保田 もか（長崎大学教育学部）

【キーワード】バレーボール, 教員養成課程, スパイク指導

【背景・目的】

大学の教員養成課程のバレーボール授業においては、技術習得及び技能向上はもちろんのこと指導法や練習法を習得することも重要な目的である。指導者にとって学習者の「わかって、できる」という視点は指導の際に必要な要素であるが、学習者が理解しにくいスパイクの技術ポイントや指導ポイントについては明らかにされていない。

そこで、スパイクを打つ一連の技術についての学習者の知識や理解度がどの程度のものなのかについて、実状を明らかにすることを目的とした。

【方法】

教員養成課程で学ぶ学生 26 人を対象とし、学習者の理解度を測るために、スパイクを打つための基礎技術の指導ポイント(久保田, 2020)をもとに 8 つに分けられた技術項目ごとに調査用紙を作成し回答を求めた。集計および分析については、実技指導に活用できるように経験者と未経験者を分けて実施した。統計的な有意差検定は χ^2 検定および残差分析を用い、有意水準は 5%とした。

【結果・考察】

スパイク技術指導ポイントの 8 つの各回答率について全体として統計的に有意差が認められた ($p < 0.001$)。経験者と未経験者との比較について理解度の平均に統計的に有意差が認められた ($p < 0.001$)。経験者、未経験者に共通して踏切局面のジャンプ、着地局面の着地の理解度が有意に高かった。また、打球局面の打球前の理解度が有意に低かった。スパイク技術指導ポイントの理解について、経験者は 8 割、未経験者は 6 割の理解度であり、未経験者はより多くの項目について理解していなかった。

【結論】

スパイク技術指導ポイントについて、バレーボール経験者、未経験者ともに踏切局面のジャンプ、着地局面の着地の理解度が有意に高く、打球局面の打球前の理解度が有意に低かった。経験者と未経験者では理解度に明らかな違いが見られた。

【本研究のセールスポイント】

学習者が理解しにくいスパイクを打つことに関する技術指導ポイントについて具体的な指標を得ることができ、学習者も指導者も双方向の視点からの課題解決に向けた充実した授業実践を可能とする一助になる。

＜一般研究発表 演題番号No. 7＞

オンラインによるバレーボールのコーチングに関する事例研究

○加戸 隆司 (山梨学院大学)

【キーワード】バレーボール オンライン コロナ

本研究は、コロナ禍で運動を実施することができないバレーボールを行っている中学生や高校生、大学生に対して、双方向の意思疎通が可能な Web 会議ツールを用いて、対面することのできない状況下でも行えるオンライントレーニングの有効性、および部活動への外部指導としての関わり方について検討して、効果的なコーチングの一資料とすることを目的とした。その結果、提供したコーチングの有効性等に関するアンケート5項目のうち4項目で、実施者の多くで肯定的な回答を得られた。このことは、運動実施が不可能な状況下では、オンラインでのトレーニングが有効的であったことが示唆された。また、説明だけでなく動きの手本を同時に見ることができたことや言葉を掛け合いながらできたこと、チームメイトの顔を見ながらできたことなど双方向の意思疎通が肯定的な回答の要因になったと考えられる。「受講頻度」の項目においては、希望頻度にばらつきがみられたが、年代間では差が見られず、1週間に3回がもっとも多くなった。このことは、トレーニングの知識を活用して、適度な休息をいれようとしていることがうかがえた。

【本研究のセールスポイント】

対面できない状況下においても、運動機会を確保するために行った研究であり、今後新しい生活様式の中でも活用していけるように考え取り組んだ研究である。

＜一般研究発表 演題番号N o. 8＞

ネット際での押し合いのメカニズムについての検討 Discussion about the mechanics of joust above the net

○三村 泰成 (鶴岡高専)

【キーワード】Joust, 押し合い, ブロック, 角加速度, チャレンジシステム

現行ルールではダブルフォールトがないので「押し合い(ネット上でボールが静止)」の後にプレーが継続することになっている。それゆえ、ネット際で「押し合い」が頻発し、本来のバレーボールにはない技術が用いられているようである。海外では、これを Joust(一騎打ち)と呼んでいる。2人で同時にボールを保持して停止する状態では、意図的にボールを持っているかどうかを審判が判断するのは不可能であり、巧みに「ボールを持つ」という反則ギリギリの技術も発達しているようである。近年、高速度撮影を判定に利用するケースも増えてきて、今まで見えてなかったものが明らかになり、一貫性ある判定が実施できないという問題も発生しつつある。CASEBOOKの3.15には、「If the contact is truly simultaneous by opponents exactly above the net, where both players have the right to play the ball and it lands outside a court, it is the fault of the team on the opposite side. Team A gets service. (ネット上で同時の接触後、そのボールがコート外に落ちた場合、ネットを基準にボールの反対側の選手が振れたものとし、落ちた反対側のチームの反則とする)」という指針が示されているが、現行では、押し負けた側が最後に触ったと判定されることがほとんどであり、上記の指針が実運用されるケースは少ない。

そこで本研究では、押し合いの攻防に必要なスキル向上、ルールの判定基準の知見に役立てるために、ネット際の「押し合い」という力学現象を明らかとする。

【本研究のセールスポイント】

ここ最近、「押し合い」で議論が起きています。実際に起きていることを把握できないと問題解決に近づけないことから、力学的現象を明らかにする作業は意義あることだと言えますし、また、ここまで詳細に考察した例は少ないと思います。

本研究を少しでも混乱収束に役立てることが出来れば幸いです。

<入 会 案 内>

◆日本バレーボール学会への入会について

1. 学会のコンセプト

日本バレーボール学会は、これまでのバレーボールに関する研究を体系化すると共に、情報交換の場の設定等を通じて新たなバレーボール学の構築を目指しております。1996年にバレーボール研究会を発足させ、ついで1999年には名称をバレーボール学会へと発展的に改め、2009年に国際的な連携を考慮し、日本バレーボール学会と改め、今日に至っております。今後もバレーボールを科学的な側面から研究すること、バレーボールのコーチングの場で役に立つ情報の提供等を行い、バレーボールの普及・強化のために資することができるように、より積極的・活発な活動を展開します。

2. 入会手続き

当日、日本バレーボール学会への入会手続きを行う事ができます。ご希望の方は受付でお尋ねください。受付にて「日本バレーボール学会入会申込用紙」に記入の上、年会費（5,000円）をお支払いください。その時点で日本バレーボール学会ホームページからの申込みあるいは申込用紙の内容項目を記述したE-mailでも申し込み可能です。その後、郵便局の振込用紙にて年会費（5,000円）をお振込みください。入金が確認された時点で日本バレーボール学会会員となります。

日本バレーボール学会 事務局

住所：〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町6-1 常葉大学 高根研究室内

Tel&Fax 054-297-6264

E-mail : jsvr.office@gmail.com ホームページ : <http://www.jsvr.org>

振込先：郵便局 口座番号：00240-2-66791 口座名称：日本バレーボール学会

なお、入会後の年会費については口座自動引き落としの手続きを進めておりますので、入会后事務局からの預金口座振替依頼書を送付します。預金口座振替依頼書に必要事項をご記入・押印の上、日本バレーボール学会事務局までご返送ください。

<広告協賛企業・団体一覧>

- アシックスジャパン株式会社
- アルファクリニック
- 石田スポーツ
- ウルフドックス名古屋
- 愛媛銀行
- F C東京 バレーボールチーム
- 株式会社ジェイテクト
- 東レ・アローズ バレーボールチーム
- 中川病院
- 西本整形外科
- 日本文化出版株式会社
- パナソニック・パンサーズ バレーボールチーム
- 日立オートモティブシステムズ女子バレーボール部
(日立・リヴァーレ バレーボールチーム)
- ひめっこビーチスクール
- ファイテンショップ 松山椿店
- 有限会社ブックハウス・エイチディ
- 株式会社ベースボールマガジン社
- 松本歯科
- ラジオ体操連盟

(五十音順)